令和4年度 授業改善推進プラン 社会科 (大森第三中学校)

<昨年度の授業改善推進プランの検証>

★取り組みにおける成果と課題

3年生:	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を毎時間活用し、資料の活用や資料に基づいた意見交換などの機会をもち、資料に親しむ感覚をもたせることができた。 ○意見交換の活動を取り入れ、グループの意見をまとめて発表するなどの取組を通して表現力の伸長も図ることができた。 ○受検期に集中的に復習課題に取り組む機会をもち、3年間の学習のまとめを行うことが出来た。
2年生:	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に基礎・基本が身に付いてきているので、定着が不十分な分野の確認を継続していく。 ○主体的に学習に取り組む教材を活用したことで学習意欲が高まり、知識の確実な定着につなげることができた。
1年生:	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本となる内容を繰り返し確認する機会を設けたことで定着を図ることができ、学習に向かう態度の向上にも結びつけることができた。 ○ワークシートなどに自分の考えを書き、発表する機会をもつことで、見方・考え方を広げることができた。 ○定期考査等での記述問題への取り組み方を指導することなどで、あきらめずに解答していくことへの意欲をもたせた。

<社会科の内容別結果の分析> (区・学習効果測定)

内容	1年生	2年生	3年生
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○「世界の中の国土」の領域では校内平均正答率が目標値を1.8ポイント上回ったが、「日本の食料生産」「日本の工業生産」の領域は校内平均正答率が目標値を下回った。特に日本の食糧生産における品種改良や食料自給率についての問いで正答率が低かった。 ○日本国憲法に関する問題は、校内平均正答率が目標値を2ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「世界の姿」の領域では、校内平均正答率が目標値を10ポイント下回ったが、「日本の姿」の領域では目標値を上回った。「世界各地の人々の生活と環境」の領域では校内平均正答率が目標値を4ポイント下回ったが、「世界の諸地域」の領域では目標値を上回った。 ○「世界の姿」の中の赤道上に位置する国についての問いや「世界各地の人々の生活と環境」の中の人々が住む家についての考察の問いで正答率が低かった。 ○「世界の諸地域」では、アジア、ヨーロッパに関する問いで正答率が高かったが、南アメリカ、オセアニアについての問いで正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「日本の諸地域」の領域で、校内平均正答率が目標値をともに上回った。特に、「日本の貿易」については、複数の資料をもとに考察していることについては目標値を大きく上回った。 ○「身近な地域の調査」の領域で地形図の読み取りが目標値を上回った。 ○「日本の人口ピラミッド」に関する問題の校内平均正答率が目標値を大きく上回った。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○「明治維新と世界に歩みだした日本」「世界の中の日本」の領域では校内平均正答率が目標値をわずかに上回った。 ○「天皇中心の国造り」「天下統一と江戸幕府」の領域では目標値を下回った。 ○特に古代の歴史における正答率が低く、学習内容の習得に課題があることが読み取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「縄文～古墳時代」「中世の日本」の領域では校内平均正答率が目標値を上回ったが、「飛鳥～平安時代」の領域では目標値を下回った。 ○「縄文～古墳時代」の古墳時代の東アジアの様子に関する問いの正答率が目標値を14ポイント下回った。「飛鳥～平安時代」の領域では、平安時代の蝦夷平定や桓武天皇の政治についての問いで目標値を10ポイント程度下回った。「中世の日本」の領域では元寇後の社会の変動に関する問いで目標値を大きく下回ったが、鎌倉幕府に関する問いで目標値を30ポイント以上上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の領域で、校内平均正答率が区平均正答率と目標値をともに上回った。 ○「江戸時代」の領域で目標値を上回った。 ○「明治時代」の大日本帝国憲法の領域については、目標値を大きく下回った。

<社会科の観点別結果の分析> (区・学習効果測定)

観点	1年生	2年生	3年生
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別の校内平均正答率が目標値を下回った。 ○「日本国憲法の三大原則」や、「豊臣秀吉により行われた政策」、「明治初期の改革」について答える問題では、目標値を上回った。 ○「品種改良」や「太平洋ベルト」「日本国憲法における天皇の位置づけ」、その他聖徳太子が行った政治などの古代の歴史に関する問題の校内正答率は目標値に届かず、課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を2ポイント下回った。 ○「日本の姿」の中の日本の領域についての問いで目標値を上回った。「飛鳥～平安時代」の中の聖徳太子の政治についての問いで目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能についての正答率は全体的に高かった。 ○日本の農業と、地形図について、資料をもとに答える問題では目標値を大きく上回った。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別の校内平均正答率が目標値を下回った。 ○ユニセフの活動について考える問題では、今年度の校内平均正答率が昨年度の正答率を大きく上回り、さらに目標値を上回っている。 ○織田信長・豊臣秀吉の天下統一から江戸幕府の体制確立までの流れを答える問いで目標値を下回り、課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を上回った。 ○「世界の諸地域」の中のヨーロッパ諸国の国際分業に関する問いで20ポイント目標値を上回った。「縄文～古墳時代」の中の渡来人に関する資料からの考察や「中世の日本」の中の武士の館の特徴の読み取りで目標値を上回った。 ○弥生時代の農耕の広まりと人口増加の関係について考察する問題では目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の貿易に関する記述問題では、校内平均正答率が目標値を大きく上回った。 ○中部地方の農業についての記述問題でも、校内平均正答率が目標値を上回った。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別の校内平均正答率が目標値を下回った。 ○米作りに関する複数の資料の読み取り問題では、校内平均正答率が目標値を上回ったが、日本の食料生産や参勤交代に関する問題では目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内平均正答率が目標値を若干下回った。 ○世界の主な宗教の分布への理解をもとに地図を読み取る問いや弥生時代の外交への理解をもとに資料を読み取る問いで目標値を上回ったが、オーストラリアの鉱工業に関する理解をもとに資料を読み取る問いで目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界や日本の米の生産に関する問題では、校内平均正答率が目標値を少し上回った。

<社会科の課題と具体的な授業の改善策>

学年	課題	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○特に歴史的分野の古代～近世の知識の定着に課題がみられた。また、領域によって複数の資料を読み取り、関連づけて考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の定着のために、基礎・基本となる既習事項の確認を繰り返し行っていく。また、単元ごとに学習内容を振り返りまとめる課題を出すなど、語句だけではなく語句・事象の繋がりについて生徒自身が理解を深められるよう工夫する。 ○授業内で、複数の資料を読み取り、関連付けて答えを導く活動を取り入れる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本となる学習事項の定着にムラがある。 ○短答や記述問題に取り組む意欲は向上したが、類型外の解答が多かったため、設問のポイントをしっかりと捉えられるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の測定で課題の残った学習内容について、様々な機会に繰り返し復習をする場面を設定する。 ○複数の資料や材料をもとに考えを深める活動を行う際、考えるポイントを明確にし、論理的な思考力を高める工夫をする。また定期考査の出題を工夫し、考査後のふり返りも丁寧に行っていきたい。

3年	○2つ以上の資料の関連を考えること。 ○領域によって知識の定着に偏りがある。	○授業内では、資料を調べる・読み取るなどの活動を取り入れ、資料に親しみを持たせる。 ○学習内容の定着のために、既習事項の確認を適宜行っていく。また、単元ごとに学習内容を振り返りまとめるプリントを出すなど、語句だけではなく語句・事象の繋がりについて生徒自身が理解を深められるよう工夫する。
----	---	--